



(2月に入り雪も降りましたが、庭のスイセンが咲き始めていました) 2/11三区町にて撮影

味噌づくり教室(西公民館講座)

2月3日(土)西公民館で「味噌づくり教室」が開催されました。「日本の伝統的調味料『味噌』発酵食がブームの今、新しい家庭の味を作ってみませんか。本物の『手づくり味噌』で味噌汁の味も、家族の評価もUP!間違いなし!」との呼びかけに22名が参加しました。

講師は、結城市にある秋葉糴味噌醸造(株)のスタッフ2名。参加費は樽付きで4,800円。糴や今回作る味噌の材料についての説明があった後、予め1セットずつ準備されたもので、8.5kgの「10割こうじ米味噌」づくりを行いました。

①塩切糴づくり(糴を良くほぐし、塩を混ぜる)②煮大豆との攪拌(煮大豆・塩切糴・煮汁を良く混ぜ合わせ、根気よく練り込み(こねて)「仕込み味噌」をつくる)③樽詰め(「仕込み味噌」を両手で握れる位にまとめ、樽の底に打ち付けるように詰め(空気を抜く)、詰め終わったら表面を平らにして、塩を樽の縁に振り、押し蓋を置く)との手順でしたが、講師の方の丁寧な説明もあり、作業は1時間ほどで終了しました。

味噌づくりでは、混ぜたり、こねたりする作業があり、この作業の力加減などによって風味が違ってくるとのことです。この味噌(仕込み味噌)が食べられるようになるのは半年位先とのことで、お盆過ぎには白味噌に、成熟期間が長くなる暮れには赤味噌になるそうです。(仕込み味噌を美味しく育てる保管方法の説明もありました。)

昨年も開催され、リピーターの方も多い「味噌づくり教室」ですが、持ち帰った「手前みそ」は、それぞれの家庭の味になっていくことでしょう。



投稿 大谷選手、ありがとう!!

1月15日、メジャーリーガー大谷翔平選手から、3つのグローブが本校にも届きました。早速、昼休みに6年生全員が、順番にグローブをはめてキャッチボールをしました。

手にした子どもたちからは、「うわー!軽い!」と驚きの声や笑顔が弾けていました。初めてキャッチボールをする子もいて、グローブの付け方やキャッチボールの仕方を野球部員や先生から教わっていました。みんな、大谷選手からのプレゼントに感激し、楽しくキャッチボールをして、野球に興味をもったようです。

1~5年生の全児童もグローブを手にして大喜びでした。

今後、クラス遊びや体育の授業でみんなで活用していきます。大谷選手のサインと「野球しようぜ!」のメッセージ、しっかり子どもたちにも届いていました。大谷選手、素晴らしいプレゼントをありがとうございました。(西小学校)

西小1年生に「昔遊び」を伝授(高齢者部会)

1月18日(木) 高齢者部会を中心としたボランティアの方々17名が西小学校に出向き、昔遊びを1年生(55人)に伝授しました。1年生は7~8人ずつのグループになり「けん玉、竹とんぼ、はねつき、あやとり、めんこ、こま、おはじき」の中から4つを選び「昔遊び」を体験。最初は戸惑い、途中くじけそうになる子もいましたが、やさしく励まされ、「昔遊びの名人」からコツを教えて貰うと、楽しそうに「昔遊び」に挑戦していました。

この授業は生活科の中で行われました。生活科は従来の1, 2年生の社会科・理科を統合したもので、身近な社会や自然とのかかわりから生活を考え、生活に必要な習慣・技能を身につけるための教科ですが、様々な取り組みがあるようです。



投稿

野鳥観察(チャレンジ☆キッズ)

1月20日(土) 西公民館主催のチャレンジ☆キッズが行われました。チャレンジ☆キッズは、西小学校の児童を対象に5月に開講。いちご狩りや木工教室、クリスマスリースづくりなど学校の授業では体験できない活動を行っています。この日は今年最後のプログラム「野鳥観察：どんな鳥がいるのかな?」ということで、担当を務めましたので、その様子を報告します。



10時開会。参加者は親子20人程。プロジェクターを使い「冬に見られる鳥は、一年中いる鳥たち(留鳥)に加え、北の方から渡ってきた鳥たち(冬鳥)」などの話をした後、双眼鏡を配り、注意事項や使い方を説明。早速、野鳥観察に出発。

公民館の玄関先では、木の天辺にいるカワラヒワをフィールドスコープで観察。庭に設置したエサ台周辺ではヤマガラ、シジュウカラが見られたほか、ツグミ(冬鳥)も観察できました。公民館前から雲照寺の墓地に向かうところではキジバト、カケス、ヒヨドリが、その先ではシメ(冬鳥)も。田んぼの畦を通り、雲照寺の境内へ。暫く休憩していると何羽か小鳥の飛ぶ姿が見られましたが、種類までは分かりませんでした。

出発して1時間程で西公民館に戻り、今日見られた鳥をおさらい。この日は10種の野鳥が観察できました。

子ども達には、双眼鏡の扱いは難しかった様ですが、今回の観察で、野鳥など自然に興味を持つ「きっかけ」になればと思いました。(日本野鳥の会会員 肥塚喜弘・澄江)